

1 - 1 世界天文年とはどんな年？

世界天文年は国連の定める国際年のひとつで、西暦 2009 年の 1 年間がその期間です。136 の国と地域が参加を表明しています（2009 年 1 月 16 日現在）。世界天文年は過去に例がなく初めての実施ですので、世界天文年といえば 2009 年のことです。世界天文年は「せかいてんもんねん」と読みます。英語の略称は IYA（アイ・ワイ・エー）と読まれています。

世界天文年の公式な呼びかた

この世界的な記念の年について、公式名称は次のとおりです

英語： International Year of Astronomy 2009（略称：IYA2009）

日本語： 世界天文年 2009



スローガン

英語： THE UNIVERSE: YOURS TO DISCOVER

日本語： 宇宙 … 解き明かすのはあなた

趣旨

望遠鏡による天体観測 400 年を記念し、また、世界中の人々が夜空を見上げて、宇宙の中の地球の存在や、人間・生命の存在に思いを馳せ、自分なりの発見をする年にしよう、というのが、世界天文年の趣旨です。

いつ誰が決めたのか

2009 年は、ガリレオ・ガリレイによる初めての天体望遠鏡を使った宇宙の観測（1609 年）から 400 年の記念の年です。2009 年を世界天文年にしようとしたのは国際天文学連合（IAU）であり、ユネスコ（国連教育科学文化機関）がそれを承認し、2007 年 12 月 20 日に開かれた国際連合第 62 回総会で決議され正式な国際年として決定されました。

準備はいつから始まったのか

2007 年 3 月、ドイツのミュンヘンで国際天文学連合の世界天文年 2009 ワーキンググループによる国際準備委員会が開催され、世界共通で用いる公式ロゴマークや、スローガン、主要企画などが決まりました。そこには国際天文学連合の加盟国からそれぞれ代表者が出席しました。日本からは日本学術会議物理学委員会 IAU 分科会の海部宣男さんが出席しました。

よくある質問：なぜ「国際天文年」と呼ばないの？

"International Year of Astronomy" は、直訳すれば「国際天文年」ですが、「国際」という日本語は、（多国間ではなく）2 国間でも成り立つこと、やや狭い印象を与える可能性もあること、このイベントが開発途上国を含め真に世界を巻き込む活動として企画されていること、などを考慮すれば、日本語の語感としては「世界天文年」が適切であり、その目的とするところをよく表すであろうとの認識をふまえ、世界天文年 2009 日本委員会、および同企画委員会において慎重に検討の結果、日本語名称を「世界天文年」と訳すことが適切との結論を得ました。

この日本語名称は、国際天文学連合（IAU）の対応機関である日本学術会議においても了承され、現在広く用いられています。

メッセージ ガリレオの驚きを、みんなの驚きに

ガリレオ・ガリレイが、うわさの「望遠鏡というもの」を苦心して作り、それで宇宙を眺めたのは、1609 年末といわれています。今から見ればおもちゃのような口径 4 センチメートルの望遠鏡で見たものは、驚きに次ぐ驚きでした。

水晶の球といわれていた月には、円いクレーターがいっぱいでした。地球と同じような天体だったのです。不思議な「天の大河」だった天の川は、無数の星の集まりでした。木星には 4 つも月が回っていました。科学の歴史で最大の発見をしたガリレオの驚きと興奮は、彼がすぐに書き上げた『星界の報告』で、ありありと読むことができます。

発見は、新しい謎を呼びます。ガリレオが解き明かした宇宙は、400 年後のいまも続いている、宇宙の謎の探求の始まりでした。人間の宇宙は、望遠鏡の発達とともにどこまでも広がって、私たちは 137 億年前のビッグバンに迫り、第二の地球を大型望遠鏡で探しています。

望遠鏡による宇宙探求の扉を開いたこの観測から 400 年を記念するのが、「世界天文年 2009 (International Year of Astronomy 2009)」です。国際天文学連合 (IAU) が中心となり、天文学と科学に関する行事を世界中で、さまざまな規模やかたちで、展開します。すでに 100 を超える国々で準備がはじまっていますが、日本では研究・教育・普及など全国の幅広いメンバーによる「世界天文年 2009 日本委員会」のもとで、楽しい企画が続々と提案・検討されています。

ガリレオの驚きを、みんなの驚きに。尽きない宇宙の謎を、みんなのものに。そして、子どもたちが本来持っている自然への興味と科学への関心を応援し、育てたいと思います。皆さんも、ぜひご参加ください。



2007 年 12 月

日本委員会委員長 海部宣男

(放送大学教授、日本学術会議会員、前国立天文台台長)